

# みずき野町内会だより

<http://goo.gl/gSKV>

第3号

2013年1月25日(金)

発行人 守谷すみずき野5-3

みずき野町内会

会長 矢嶋 鍾美

## 新年を迎えて



みずき野町内会会長 矢嶋 鍾美

新しい年をお健やかに迎えになられたことと心よりお祝い申し上げます。

元旦には天候に恵まれ、多くの町民の皆様と文化財公園において厳粛に初日の出を遥拝しながら新年を迎えることができましたことはこの上ない喜びとするところです。

皆様にすばらしいご幸福が訪れますようお祈りするとともに、新たな心で新年のご挨拶を申し上げます。昨年は守谷市の今後10年の指針となる「第二次守谷市総合計画」が発表され、さらに、地域福祉活動計画も策定され、地域住民が主体となって福祉活動計画を具体化する活動が始まりました。

みずき野でも子供達、現役世代、リタイア世代が安心、安全に住み続けられる街づくりが焦眉の課題であり様々な動きがあります。たとえば、社会福祉協議会が母体となる地域福祉活動計画の実行委員会の活動、町内会が推進する自主防災体制の組織化、ボランティアグループによる福祉活動、住民参加の親睦・サークル活動など守谷市内の他地区と比べても非常に活発に動いています。

町内会といたしましては、現在活動中の多様なグループが同じ目標に向かって効率よく活動できるように調整をとりながら、思いやり、助け合いの精神にあふれた、安心、安全に住み続けられる街づくりを加速してまいりたい所存です。これまでにも折に触れて、誰かが安心、安全に住み続けられる街を作ってくれるわけではなく、自分達の手で作らなければ実現できないことを申し上げてきました。

**皆様の参加が成功の鍵です!!**

町民の皆様のご理解と積極的なご参加を期待いたします。

今年が皆々様の幸多き一年でありますよう念願し、ご挨拶とします。

## ドンド焼き・餅つき大会開

1月13日(日)早朝より、野球場広場(第一調整池)にて恒例のドンド焼きの行事が行われました。多くの住民が正月の松飾りや注連縄(しめなわ)等を持ち寄り、火祭りを行いました。

「ドンド焼き」の語源については、火が燃えるのを「尊(とうと)や尊(とうと)」と囃し立てたことから、その囃し言葉が訛ったのだとか、どんどん燃える様子からそれらの名称がついたのだとか言われています。ドンド焼きは、祓い清めという役割と、正月に浮かれた人々を現実世界に戻す、二つの役割を担った行事と思われま。その他にも1年中の身体健康、無病息災、家内安全、五穀豊穰などを祈願しています。同時に集会所の前と脇の中央公園にて「ポケットの会」、「テイふれ」、「みずき会」、「ソフトボール部」の協力の下、餅つき大会が行なわれました。子供達も参加し、長い行列が出来る程盛会でした。皆で出来立てのお餅をアンコや黄な粉をつけて、豚汁と一緒に頂きました。集会所も開放され、コーヒーやジュース等もサービスされ、午後より町内会の新年会で締めました。



### 町内サークル紹介 ティーふれ



町内会支援グループとして喫茶室を毎週火曜日13時半~みずき野集会所で開いています。老若男女の皆様に来て頂いています。毎回プチイベントを開催していますが、囲碁、将棋、みずき会メンバーの麻雀教室、お茶を飲みながら話が盛り上がっている方もいらっしゃいます。又、季節に合わせて軽食をお出する時もあります。ボランティアメンバーも楽しみながらサービスしています。皆様のほっと一息スペースに、どうぞお気軽にお越しください。

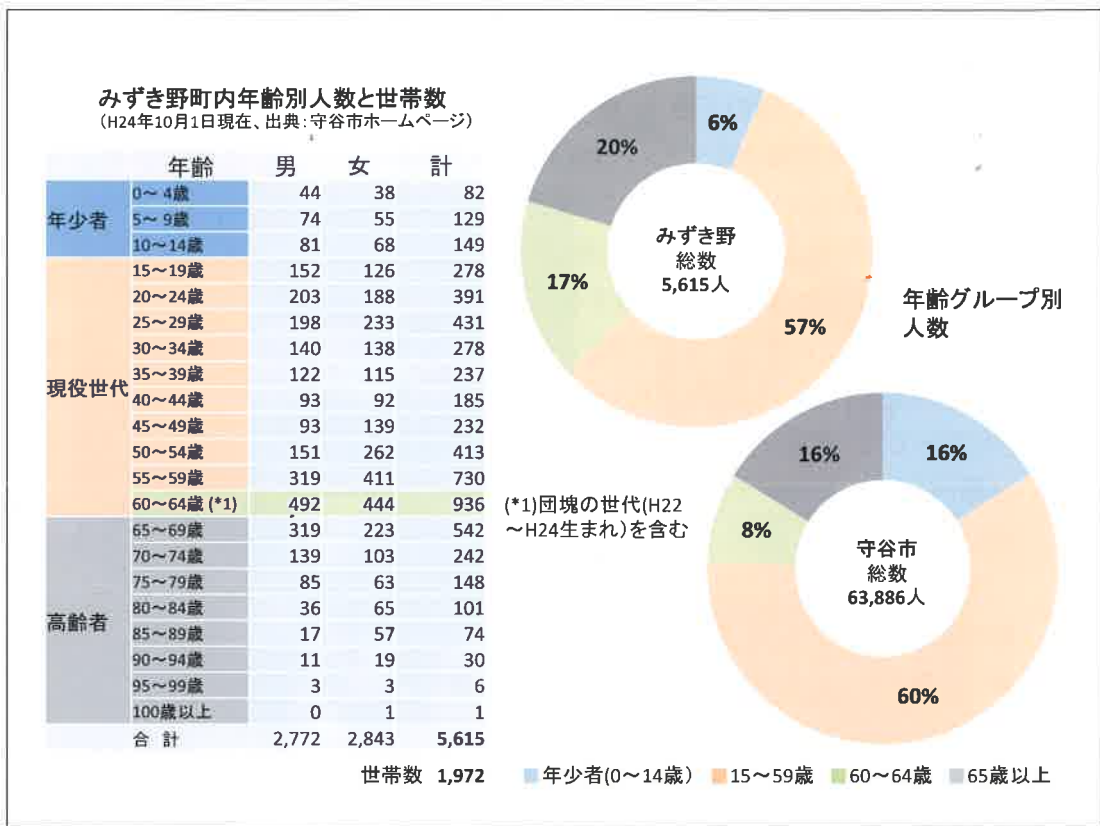
### 町内サークル紹介 FC郷州



FC郷州は郷州小の開校と同時に発足し、今年30年目を迎え、既に700名近い子供達がここから巣立ちました。サッカーを通じて友達の輪を広げ、子供らしい伸びやかで健全な心と身体作りを目指しています。子供達の父母が中心となって運営しているスポーツ少年団です。コーチは全員子供達のお父さんです。父母会が応援して、親子そろってサッカーを楽しむのが目標です。毎週土、日曜日の午前中、約70名が郷州小グラウンドで練習しています。

# みずき野の人口構成

みずき野町の全人口は 5,615 名、一世帯あたり 2.85 人、男女比はほぼ一対一である。年少人口(0～14 歳)比率が圧倒的に低く、高齢人口比率が高い、典型的な少子高齢化の町と言える。みずき野の高齢化率(全人口に占める 65 歳以上の人の割合)は 20.4% (1,144 名)。今年から団塊世代が 65 歳に到達し始め、5 年後には高齢化率は 35%程度 (2,000 名)と予想される。年を取っても元気で社会参加する「サクセスフル・エイジング」がより重要となる。



## 地域福祉ニュース

みんなの幸せ、みんなで作ろう(その3)

救急講習会が開催されました。

心肺蘇生法を中心に学ぶ救命講習は毎年開かれて、すでにたくさんの方に救命技術の基礎を学んでいただいています。今回はみずき野では初めて



怪我や熱中症等の応急手当てを中心に学ぶ救急講習というものが開かれました。

当日は消防署南守谷支所から救急救命士や消防士等 5 人の講師においていただき、また受講に応募いただいた 30 人の住民の方が参加して下さいました。

今回学んだこと

1. 止血は出血部位を上から圧迫することが原則で、心臓側を縛るのは時間管理が必要で素人はやらないほうがよい。
2. 骨折の固定は骨折部位の上下の関節の両端を縛ること、骨が飛び出している場合は押し戻さない事。
3. 熱中症は水分塩分補給と共に首やわきの下など太い血管が走っているところを集中的に冷やす。

からだ赤く、且つ汗をかいていない場合は命の危険が迫っている状態である。ということ等です。

また、受講者のひとり北澤さんが重要な質問を下さり、救助の際の大事な点を確認することができました。それは重い物の下敷きになった人をジャッキを使って救出する場合はクラッシュ症候群というものに気をつけないといけないということです。大きな筋肉が長時間圧迫されて血流が途絶している場合、負荷が取り除かれて血流が再開すると血清カリウムの急上昇による心停止、ミオグロビンによる急性腎障害により命を落とす危険があります。建物の下敷きになって1時間以上たっているような場合の救助は専門家の手にゆだねなければならないということです。

次回の講習にも多くの方が参加して下さることを期待しています。みずき野の皆さん、大きな災害が起こったときはまず自分の身を守ることが最重要です。自分の安全が確保されたら次に隣近所の安否確認を行ってください。もしけが人や火災の発生があれば隣近所で初期消火や救助に当たるとともに町内会の災害対策本部に連絡して必要な援助を要請することが重要です。

誰にとっても災害は他人事ではありません。皆さんそれぞれの事情があり、自分のことだけで精いっぱいという方もいらっしゃると思いますが、できるだけ多くの方が無理のない範囲で、自分にできることに



\* 竹竿と毛布で応急担架を作ります



\* 三角巾を使った骨折部位の固定

参加することにより災害に強い街づくりをすることが可能になります。

町内会では災害発生時にスパン単位で被災状況の情報収集を行うための組織を作ることを計画しています。みずき野の防災体制作りに積極的に参加して下さることを願っています。(朝倉正彦)

## 編集後記

まず、2号で募集しました当町内会便りの愛称募集の件、慎重に審査した結果「みずき野町内会だより」とさせていただきますことをご報告いたします。

“名は体をあらわす”の諺のように、愛称で広報誌としての役割を理解いただくため明快に表現したほうが良いとの意見が多く寄せられました。

版を重ねるごとに、編集委員のメンバーにはそれぞれ隠れた才能があることを発見し驚いています。みずき野には多才な方がお住まいであることを改めて認識し、編集委員会には力強い戦力が整いつつあることを実感しています。

また、編集委員会で、創刊号、2号では結果の報告記事が多かったことの反省意見が出て、3号以降は未来に向かって考える記事を増やしていく方向で、早速改善の企画を組みました。

・・・みずき野の人口構成から未来を考えてはいかが？